

祈りの形

A2201305 小野 愛実

研究の背景

現代社会においては、多くの方が何らかの不安をかかえ、暮らしの中で絶えず些細な祈りの気持ちを抱いていると考える。そして抱いている祈りを受け止めてくれる物(祈りの形)があることで人々は多少の安らぎを得られるのではないかと考えた。そこで、身の回りにある代表的な祈りの形として仏壇や厨子を調べてみると、これまでの様式とは異なる様々な形の物も市場にあり、中にはデザイナーによる新しい祈りの形もいくつか提案されていた。しかし、私たちのような若い世代が好むようなデザインはあまり見受けられず、その中でも 10 代後半～20 代の女性に好まれるようなデザインは更に少ないように感じた。

会津の伝統技法である漆塗りをを用いて、若い世代に向けた祈りの形を提案することで、新たな漆の一面を感じさせることが出来ないかと考えた。

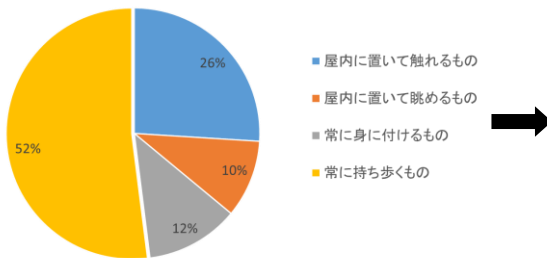
研究の目的

- 10 代後半～20 代の女性に好まれる、祈りの形を提案する。これにより若い世代の人にとって、安らぎとなるような心のよりどころを作る。
- 会津の伝統技法である漆塗りをを用いることで、若い世代の漆に対する認識を深める。

研究のプロセス

【アンケート調査】

女性が求める祈りの形について調査



どういった祈りの形がよいかという質問に対して、約半数を占める 52%の方から常に持ち歩くもの、約 1/4 を占める 26%の方から屋内に置いて触れるものという回答があった

【持ち歩く祈りの形】

1. 木地設計
2. 木地固め
3. 摺り錆(数回)
4. 摺り漆(数回)
5. 下塗り
6. 中塗り
7. 上塗り
8. 加飾
9. 仕上げ

【触れる祈りの形】

1. 木地設計
2. 木地固め
3. 中身(仕組み)
4. 摺り錆
5. 塗り重ね
6. 仕上げ



摺り錆



摺り漆



内側の下塗り



下塗り



厚貝螺鈿の制作



木地固め



スタンド制作



音を鳴らす為の仕組み

考察

女性のための祈りの形ということで、漆の良さを生かしつつ女性の生活に馴染むような色使いやデザイン、女性の手で触れやすいサイズ感や形というところに重点を置き、研究を進めていった。

触れて感じる祈りの形については、音になる仕組みを作ることによって手からだけでなく耳からも安らぎを感じることが出来る作品に仕上がったと考える。その際、いかに滑らかな動きにするか、綺麗な音にするかという点で苦労したが、動きが滑らかで、可愛らしく心地の良い音になる作品にすることが出来た。

持ち歩くことの出来る祈りの形については、ふたを開けた時に見える内側を赤色の漆や金箔で仕上げることによって、そこに大切なものを入れるまたは入っているという存在感を印象付けることが出来るものになったのではないかと考える。また、誕生月の花をモチーフにした加飾をすることで一人一人に関係を持つ作品にすることが出来た。